

令和3年度 学校評価のまとめ

県立上山高等養護学校

1 アンケート全体から

- ・過去3年間と比較した結果は以下のとおりである。
生徒の評価は全体的に高い評価となっている。
保護者の評価は令和2年度とほぼ同様であるが、若干下がっているものもある。
職員の評価は「働きやすく働きがいのある学校」の項目において、低いものとなっている。
三者とも共通して評価が低いのは、地域との関わりに関する項目。

2 生徒のアンケート結果

(1) 評価の高い項目 95点以上 (2.78以上)

- ・設問 6 「先生は自分のことをわかってくれる。」
- ・設問 8 「職業科の学習や現場実習で働く力が身につけてきている。」
- ・設問 13 「安全安心な学校生活を送っている。」
- ・設問 16 「寄宿舎の先生は自分のことを分かってくれる。」
- ・設問 17 「寄宿舎での行事や余暇活動は充実している。」
- ・設問 18 「洗濯や掃除など身の回りのことができるようになってきている。」

※過去3年間と比較すると、設問6の評価に年々伸びが見られる。89→90→93→**96**
設問8も同様。92→93→94→**96**

(2) 評価の低い項目 特にないため90点未満の項目を挙げた。

- ・設問 14 「地域のために役に立ったり、地域の人と関わったりして活動することができた。」

※過去3年間と比較すると、評価には少しずつ伸びが見られる。80→80→82→**86**

(3) 昨年度より評価が上がった項目

- ・大きく上がった項目はないが、上がった項目は、設問1～3、6～8、10～12、14、17、18。
一番大きいのは前年度比+4 (設問3の挨拶と、設問14の地域とのかかわり)

(4) 昨年度より評価が下がった項目

- ・大きく評価が下がった項目はないが、下がった項目は設問3、4。
一番大きいのは前年度比-3 (設問4の清潔感や身だしなみ)

3 保護者のアンケート結果

(1) 評価の高い項目 95点以上 (2.78以上)

- ・設問 14 「お子さんにとって寄宿舎生活は充実している。」
- ・設問 15 「寄宿舎指導員はお子さんのことを理解して接している。」
- ・設問 18 「寄宿舎は、お子さんの舎での様子を十分に知らせている。」

(2) 評価の低い項目 85点未満

- ・設問 2 「お子さんは、自分の目標に向け、考えたり行動したりしている。」

(3) 昨年度より評価が上がった項目

- ・大きく上がった項目はないが、上がった項目は、設問3、9、12、14、18
- ・設問12を除いては、昨年度比+1～+2。
- ・設問12「地域に開かれた学校になっている。生徒たちは地域と関わって活動している。」は前年比+10。ただし、大きく上がったというよりは、例年通りの結果に戻ったと言えよう。
87→87→77→87

(4) 昨年度より評価が下がった項目

- ・大きく下がった項目はないが、設問1、2、5～8、11、13、16、17。
- ・設問16を除いては、昨年度比-1～-3。
- ・設問16は昨年度比-8であるが、もともとの回答数が少ないため、一人当たりの占めるポイントが高いことによるものである。

4 教職員のアンケート結果

(1) 評価の高い項目 95点以上 なし。 90点以上について記載

- ・設問9「卒業後の生活を見据えた進路指導をしている。」(91) ※以下()の数字は点数

(2) 評価の低い項目 80点未満について記載

【70～79点】

- ・設問6「生徒の学ぶ意欲を引き出し、わかりやすい授業を工夫している。」(79)
- ・設問12「センター的機能など地域に貢献している。地域に開かれた教育課程が実施されている。」(74)
- ・設問16「教育実践の悩み等を気軽に相談できる。」(75)
- ・設問20「教職員として専門性の向上に努めている。」(75)
- ・設問21「寄宿舎での行事や余暇活動は充実している。」(79)

【60～69点】

- ・設問17「働きやすい職場になっている。」(64)

【50～59点】

- ・設問19「教材研究や担当業務を行う時間が確保されている。」(59)

(3) 昨年度より評価が上がった項目

- ・大きく上がった項目はないが、上がった項目は設問1、3、4、8、9、10、13。
- ・設問9を除き、昨年度比+1～+2。→例年並みの結果
- ・設問9「卒業後の生活を見据えた進路指導をしている。」は前年比+6。

(4) 昨年度より評価が下がった項目

- ・大きく下がった項目はないが、下がった項目は設問2、5、7、11、12、15、18～22。
- ・設問17を除き、昨年度比-1～-3。→例年並みの結果と言える。
- ・設問17「働きやすい職場になっている。」は前年比-6。

5 まとめと考察

(1) 生徒にとって「成長を実感できる学校」にするために

- 多くの生徒は、学校生活が充実していると感じている。これは、担任や舎の担当を中心に学年や寄宿舎など関係者が連携し、生徒の様子に気を配り情報を共有したり、いじめの未然防止や気になることについて早期発見、早期対応に努めたりしている結果であると考えられる。また、いじめアンケート結果でも認知件数が0であり、生徒の安心にもつながっていると考えられる。(職員評価の設問8、10、14、15とも関連)
- 生徒は、仲間との関わりや協力などにより学校生活を楽しんでいる。また、駅清掃やマイロード活動では、地域の方からねぎらいや感謝の言葉をかけてもらったり、登下校時に地域の方と挨拶を交わしたりするなど、コロナ禍の中でも関わりが生まれている。
 - ・自分自身や仲間のことなど、悩みを抱えている生徒もいるのが記述意見からうかがえる。今後も引き続き生徒との面談を行うなど、話を聞く場の設けていく必要がある。

(2) 保護者にとって「安心して任せられる学校」にするために

- 今年度も生徒や保護者からは全体的に高い評価を得ている。これは、平成28年度後半から「傾聴と共感」の教職員の姿勢について、全員で継続して共通理解を図ってきたことの表れであると考えられる。
- 設問12がおととしと同じ数値に戻ったのは、今年度後半からコロナ感染状況が少し落ち着いてきたこととの関連と思われる。直接的なかわりだけでなく、コロナ感染状況の影響を受けないような間接的な関わり(学校の様子を地域へ発信するなど)に力を入れることも考えていきたい。
- ▲設問2の他、「お子さんは～」で始まる設問3(基本的な生活習慣)、設問4(マナーやルールを守る)、設問8(生活に必要な力・働く力)については、他の設問に比べ、厳しい評価をしている保護者が多かった。我が子への期待の表れと思われる。併せて、御家庭と学校の連携が求められているとも言える。
- ▲多くの保護者は、子どもへの親身な対応などで、「安心して任せられる学校」として信頼している。しかし、少数ながら今年度も教職員の対応の違いに戸惑いを覚えた保護者の方もいた。組織として丁寧な対応が必要であると言えよう。
- ▲働き方改革に関連する記述意見(教師の多忙化、保護者参加の行事について)をいただいた。職員の結果とも関連するため、検討していきたい。

(3) 地域や関係機関にとって「信頼できる開かれた学校」にするために

- ▲「信頼できる開かれた学校」の評価は、生徒は昨年とほぼ同じ、保護者、教職員は少しだけ上がったものの他の項目から比べると評価は低い。本校における「社会に開かれた教育課程」の取組について、再確認していく。
- ・本校の教育活動等について、情報発信を積極的に行っていく。今年度は、県立図書館や県議会で、職業科の製品展示を行った。今後も製品展示や販売、地域の方との学習について積極的な発信を行っていきたい(マスコミや地域施設との連携)。

(4) 教職員にとって「働きやすく働きがいのある学校」にするために

- ▲教職員の多忙感・負担感、働きやすい職場でない、気軽に相談できない雰囲気この3点は、以前からの課題である。今年度も「ノー会議デーの設定」や「グループウェアの利用」など、ゆとりをもって働けるように取り組んできたが、昨年度以上に「働きやすい職場」になっていない結果となり、働きにくさはどこから来るのか、根本的に見直すことが喫緊の課題である。業務量に関する問題なのか、人間関係に関する問題なのか、物的環境に関するものか、その他の要因が関係しているのか、課題をしっかりと洗い出し、問題点を共有し、改善に向けて取り組んでいく。